

令和6年度 小金井市立緑中学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する。
- ・生徒の実態に応じた柔軟な指導を推進する。

2 各教科等における生徒の現状分析と授業改善の視点

教科名	現状分析
	授業改善の視点

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や文法など、言語分野での知識・技能が十分に身につけていない生徒が半数近くいる。 ・自分の考えや意見をもてても、思考が整理できず、「話すこと」「書くこと」など、表現が思うようにできない様子である。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookを取り入れて、こまめに小テストなどを実施し、生徒が自身で能力を把握できるようにしていく。 ・Chromebookの思考ツールなどを活用し、整理する練習をした上で、作文やスピーチなどの表現を行っていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高い生徒も多くいるが、都道府県など基礎的な知識が身につけていない生徒も多くいるため、基礎的な知識・技能の定着を進めていくことが課題である。 ・複数の資料を見比べたり、知識をつなげて説明したりすることなどを苦手としている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の書き込み機能などを活用し、資料のどこに注目すればよいかなどを視覚化して伝えることで、資料活用の技能の育成を図る。 ・グループワークや学び合い活動を設定し、自分の考えを人に伝えることで、エピソード記憶を活用しつつ、思考したことを表現する力の育成を図る。その際にはChromebookも活用し、互いの考えを視覚化して共有したり、自由な進捗で学習できる環境をつくったりしていく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組むことができるが自らの考えを言語化するのが苦手な生徒が多い。また、問題を解く中で細かい単語の理解をしていない生徒もいる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数(2人や3人での学習を取り入れることで自分の考えを伝える機会を増やしていく。 ・デジタル教科書やChromebookを活用し、表現力や想像力を養っていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考力や表現力を身に付けさせながら、身のまわりの生活との関連性を見いだせるようになることが課題である。 ・科学的な事物現象に対する関心があり、観察・実験に意欲的に取り組む生徒が多い。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器等も活用し、観察・実験について、レポートや発表等を通して、自分の考えを表現する方法を身に付けさせる。また、他人の考えを聞くことや知識・技能を教え合うことにより、主体的・対話的に取り組み方を育成する。 ・ICT機器を使い教科書のQRコードを読み取り等、動画や写真を見せることで、学習内容がイメージしやすいようにさらに工夫していく。

音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも歌唱活動・鑑賞活動どちらにおいても前向き・意欲的に取り組む生徒が多い。今後、器楽や創作活動にも取り組んでいく。 ・歌唱において、基礎的な発声方法を身につけてきてはいるが、まだ声量の足りない部分があり、響く声、ブレスを繋げられるようにトレーニングしていく必要がある。 ・正しい発声方法で歌い、全体の響きを感じ取って表現するよう指導する。また、個別の声かけなどで、表現に対する自信をもたせていく。 ・曲の構成やテクスチャから声部の役割を理解し、音色も意識して歌えるような技能の指導を行っていく。
美 術	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも、造形的なよさや美しさ、美術の働きなどについて積極的に考えることができているが、主題を生み出し、豊かに発想し、構想を練ることを苦手とする。 ・様々な年代・国の作家の作品をスライド、プリント、Chromebook などを使い、多く見せ、表現方法の面白さを感じとれるようにしていく。 ・説明を長すぎないようにし、極力制作時間を確保し、生徒がじっくり構想を練られるようにしていく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機会の減少により、自分の身体を機能的、運動的に動かすことが苦手な生徒が多い。また、自分の動きをイメージ化してつかむことが苦手であり、自分が思っている動きと実際の動きに大きく差が見られることが多い。 ・Chromebook を用いて、自分の動作を録画、確認することで客観的に動きを確認し、自分のイメージと実際の動きの差を理解し、正確な動きになるように動作の修正が行えるようにする。それに伴い、ペアなどで互いに改善点を指摘し、対話を通して動作の習得につなげていく。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が高く、まじめに取り組む生徒が多い。経験の有無は個人差が大きい。 ・実生活に活かすことのできる基礎的な生活技術の習得を目指す必要がある。個別最適な学びの中で技能の個人差を補うため、個人で必要に応じて活用することのできる ICT 教材を取り入れる。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ・4技能5領域について、それぞれの技能や領域の結びつきが弱く、自己調整を図ったり学んだことを活かしたりすることが苦手な生徒が多い傾向が見られる。 ・学んだことをどう活用していくのか実際の言語の機能的側面に触れた教材作成や資料提示、言語活動を実践する。また、「読むこと」について、スライドを元にした発問について話し合ったり、生徒同士のやり取りを取り入れたりする授業を行う。 ・デジタル教科書を使用して授業を展開することで、音声や動画を用いて生徒の視覚聴覚器官に刺激が入るような ICT 機器の使い方をし、学習の基盤をつくり、定着を図る。
道 徳	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナルな意見を扱うため、道徳的価値について内容項目によっては自発的に発言する生徒が少ない。 ・役割演技や班活動等での意見交換を行ったり、Chromebook の意見共有ソフトなどを活用し、互いの意見を受け止めて自分の考えを深めていく活動を積極的に取り入れる。
総 合	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自らの興味・関心から課題を見つけ、解決しようとしたり、探究的な学習に主体的・協働的に取り組んだりしている。プレゼンテーション能力が向上している。 ・事前・事後学習を Chromebook 等を活用して、主体的・協働的に取り組めるような環境を設定する。 ・事後学習でまとめたものを発表する場面を設定する。